



広島女学院中学高等学校
HIROSHIMA JOGAKUIN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

2016年12月27日

平成28年度第2回SGH連絡会 分科会

広島女学院中学高等学校

グローバル教育推進部
高見知伸 (takami@hjs.ed.jp)

分科会の持ち方

◎この分科会がめざすもの

◎第1部 「内」をどうするか

15：45～16：35（50分間）

- 補足説明（5分）
- グループディスカッション（20分）
（①組織づくり ②意識の高め方）
- 全体でシェア（10分）@1.5分×6G
- 質疑応答（10分）

◎休憩と席移動 16：35～16：40

この分科会の持ち方

◎第2部 「外」をどうするか

16：40～17：20

- 補足説明（5分）
- グループディスカッション（20分）
（①高大連携、他校間交流 ②海外研修）
- 全体でシェア（10分）@1.5分×6G
- 質疑応答（5分）



第1部

～ 「内」の改革について～

国際教育

女子教育

平和教育

創立・被爆以来の柱を、グローバル教育という視点で再構築

- 1886 砂本貞吉牧師が広島女学会を開く
- 1887 ゲーンズ牧師がアメリカから派遣され教師となる
- 1932 幼稚園、小学校、高等女学部、専門学校を展開
- 1945 8月6日、原爆により生徒・教職員330名余りが被爆死
校舎は全焼しすべてを失う
10月授業再開
- 1948 新制高等学校発足
- 1949 新制大学発足
- 1986 創立100周年
- 2014 S G H 指定
- 現在、各学年5～6クラス、各クラス40～45名 合計約1300名



“CUM DEO LABORAMUS”
我らは、神とともに働くものなり

グローバルリーダー像



広島女学院中学高等学校
HIROSHIMA JOGAKUIN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

平和構築(核軍縮)に貢献するグローバルリーダー
敗者をつくらず対話によって対立・競争を終わらせられる人物

平和観

平和を共に創る、という視点から、世界を見る力

対話力

価値観の違う他者と、コミュニケーションを取る力

リーダーシップ

他者と合意を形成し、それを実行する力

争いのない世界を創り出すしなやかな未来

3つの力の成長目標



広島女学院中学高等学校
HIROSHIMA JOGAKUIN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

学年	平和観	対話力	リーダーシップ
中1	ヒロシマ、女学院の被爆実態を知る	論理的な言葉にめざめる	主体性にめざめる
中2	世界の意見の違いを知る	論理的に聞く、読む	ともに学びあうにはどうすればいいのかを考える
中3	対立構造から世界をとらえる	論理的に書く、伝える	意見を戦わせ、争点を明らかにする
高1	バックボーンの異なる他者との平和構築	他者と学び合い、価値観を共有する	プロジェクトを実現する
高2	社会に平和を提案する	新たな価値観の共創、提案	実社会の問題に責任をもっていると自覚する
高3	核の惨禍のない世界をつくるために、自分が将来できることを表明する	議論を通じて、合意を形成する	核の惨禍をなくすため提言を、世界に発信する力

課題研究一覽



広島女学院中学高等学校
HIROSHIMA JOGAKUIN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

学年	課題研究	学習形態・成果物	研修先
中1	広島、本校の 原爆被害	ポスターセッション 原爆絵碑案内	
中2	世界の多様な 原爆観	グループディスカッ ション レポート	韓国
中3	核兵器を 廃絶すべきか	ディベート 小論文	US、AUS 長崎
高1	平和共創 プロジェクト ①	グループプレゼン	US、韓国 山梨学院大 ミャンマー カンボジア
高2	平和共創 プロジェクト ②	グループディスカッ ション レポート	沖縄 ハワイ
高3	核兵器を 廃絶すべきか	交渉ゲーム 小論文	

碑めぐり・署名

首都大・関学・長崎大

C I F ・ P F

成長目標の共有を通じた
生徒・教員協働による高大連携型グローバル人材育成

校長

国際教育委員会

人権教育委員会

平和教育委員会

一つに
統合

校長

グローバル教育
推進部

各学年会

各担任

生徒ひとりひとり

主任

副主任

延べ34名、実人数19名

推進係

8名：各学年に1～2名配置。学年ごとの課題研究教材の開発を柱に、SGH事業の運営の中核を担う。

GI係

4名：高1～2の選抜授業、Global Issuesを担当。

渉外・
文書係

2名：年次報告書、予算申請、中間評価など文科省向けの文書作成。

留学係

3名：留学生の派遣、受け入れ

TOEFL係

3名：TOEFL対策授業の実施、外部講師対応

海外
研修係

10名：海外研修の事前・事後指導及び引率担当

課外活動
指導係

2名：碑めぐり案内、核兵器廃絶署名活動にかかる生徒指導

**課題研究で生徒の成長を実感！
SGHで培った指導法が、日常の授業改革につながった！**

質問項目	1	2	3	4
SGH諸活動は、自分の授業や生徒に対する指導方法・内容に影響を与えた(%)	37.8	44.4	17.8	0
昨年度と比べて、今年度のSGH諸活動は充実している(%)	44.4	51.1	6.7	0
SGH諸活動を通じて、生徒のグローバルな課題に対する興味関心に変化が見られた(%)	31.1	55.6	11.1	0
本校にとって、グローバル教育の推進がさらに必要である(%)	42.3	50.0	3.8	1.9

1 強くそう思う

2 そう思う

3 あまりそう思わない

4 まったくそう思わない

AL実施頻度	%	AL実施頻度	%
ほぼ毎回	10.2	学期に1～2回	22.4
週に1～2回	24.5	年1～2回	18.4
月に1～2回	6.1	全く実施していない	10.2 ¹⁾

教員自身が主体的・対話的・協同で学びあう文化が強化

グローバルリーダー像を軸に、指導法・教材を教科内で議論・共有
校内でも授業はオープン。公開授業週間などを設定

長期休暇ごと＋不定期に実施
(年10回程度)

- ・ Q-U
- ・ AL型授業
- ・ SGHレビュー
- ・ 英語指導法など教科別のものも

海外研修の引率や、事前事後指導のサポートを行う

教科

研究発表会(年2回)のうち1回は、教科会主体で実施。グローバル教育とAL型教科指導の取組を発表

課題研究を契機に高大接続がすすむ。教員が大学教授から指導法を学習。広島市や国連などとの連携も加速。

外部機関

課題研究の教材は、学年会で必ず毎回検討。実施後は振り返りを行う。

学年会

教員集団

校内研究会

【趣旨】

- ・ 教員から、新たな連携先の開拓、研修旅行の開発を募集（年間1本）
- ・ S G H指定後の課題研究の再編など今後の研修のあり方を見越して、新たな研修の開発を目的として実施。
- ・ 教員の意欲を駆り立てることも目的としている。

【参加】 高1・2 10名選抜(引率2名)

【事前学習】

- ・ 一橋大教授による、核軍縮・平和構築出前授業など

【行程】

- ・ 2日間： I C U、一橋大、グローバル企業で働く O G訪問、国会議事堂見学
- ・ I C Uの留学生と日本社会のグローバル化とその課題について討論。一橋大の大学生と、核軍縮についてグループ討議。
- ・ O Gにグローバルリーダーに必要な資質について意見交換

【事後学習】

- ・ 研修成果をエッセイにまとめ、校内で報告
- ・ 大学から出されていた課題を研究して送付、助言を得る

【「一丸となって」をめざすうえで】

- ・ 人員の入れ替え、大胆に
- ・ 教員にも学びや振り返りの時間を
- ・ 生徒の意識と表情が変われば

【組織力、意識向上をめざしても】

- ・ そうはいつでも、偏る
- ・ 業務量は確実に増える
- ・ 不満を拾う
- ・ 生徒の意識と表情が変わるまでは我慢

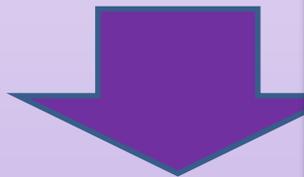
グループディスカッション①（20分間）

①組織づくり

- ・なぜ組織づくりは大切か
- ・組織づくりのうえで困っていること
- ・全体の取り組みとするための工夫

②意識を高める

- ・なぜ意識を高める必要があるのか
- ・グローバル教育に対する意識は高まっているか
- ・意識はどうやったら高まるか



模造紙には**様々なアイデアを、**
工夫して書いてください！

シェア（各グループ**1.5分**）



第1部 資料編 (14~24)

【テーマ】 広島、本校の原爆被害

広島の負った痛みを共感的に理解する

《研究内容》

- ・ 広島市、本校の原爆被害について基本知識を獲得、本校OGの被爆者から証言を聞く
- ・ 本校校内、校舎周辺、平和記念資料館のフィールドワーク
- ・ 市内各地にある原爆絵碑をリサーチし、紹介冊子を作成
- ・ グループによるリサーチ、ジグソー学習中心
- ・ リサーチ結果を模造紙にまとめ、ポスターセッション

【テーマ】世界の多様な原爆観

同じ事象を異なる視点から見る思考力・想像力を身につけ、他者性を育む

《研究内容》

- ・ 広島以外の視点から原爆について学び、中1時の研究内容を相対化
- ・ アメリカの視点(原爆製造、使用の歴史的背景やアメリカを正当化する考え方)や、アジアの視点(日本を被害者としてとらえることに批判的な考え方)に触れる。
- ・ グループによるジグソー学習、ディスカッション主体の活動
- ・ アメリカ、中国からの留学生・社会人を招いて、「平和・広島」についてパネルディスカッションを行い、質疑応答

【研修】 韓国研修5名

【テーマ】核兵器を廃絶すべきか

核軍縮をめぐる論点(対立構造)を把握し、論理的に討論する力、考えを文章にまとめる力を身に着ける

《研究内容》

- ・ 論理的に議論するために必要な思考方法(トゥールミン図式など)を学ぶ
- ・ 公民の授業と連携し、核軍縮を取り巻く国際社会の現状(核抑止論など)をグループで学習しシェア
- ・ 模擬国連の要素を取り入れ「核兵器を廃絶すべきか」を議題にディベートを実施
- ・ 国語で小論文の書き方を学習し、これまでの研究を踏まえた小論文作成

【研修】 AUS研修20名、US研修3～5名、長崎研修全員

【テーマ】 平和共創プロジェクト①

国内外の社会課題を調査し、当事者への共感的理解を基盤に問題の解決策を考察する力をつける。

《研究内容》

- ・カンボジアの内戦とその後の課題をジグソー法で学習・共有し、ヒロシマとの相違点・共通点を考察。
- ・ヒロシマ在住の元カンボジア人少年兵、元青年海外協力隊員から現地の状況を聞く
- ・カンボジア学習で培ったケーススタディ考察の力を活かし、グループで「平和」をテーマにプレゼンを作成・発表。
- ・プレゼンには「平和構築の障壁は何か」「どうすればそれを解決できるか」という視点を盛り込むことが条件
- ・ピア評価に基づき優秀グループを選出。優秀グループはSGH研究発表会で発表

【研修】 カンボジア研修10名、ミャンマー研修10名、
韓国研修10名、US研修6～8名

【テーマ】 平和共創プロジェクト②

背景の異なる他者と、対話を通じて新たな価値観を創造し、共に平和を築く実行力を養う

《研究内容》

- ・ 沖縄の地上戦について、ジグソー法を用いてヒロシマとの相違点・共通点を理解する
- ・ 首都大と連携し、戦争の記憶をグーグルマップ上に保存する“デジタルアーカイブ” 実習を行う
- ・ 現代社会の授業と連携し、基地問題について、メディアリテラシーを養いながら多様な立場があることを理解する
- ・ 沖縄尚学高校の生徒たちと、沖縄・ヒロシマ双方が抱える課題とその解決策についてプレゼン、ディスカッションを行う

【研修】 沖縄全員(うち沖縄尚学高校30名)

【テーマ】 国際会議「核兵器を廃絶すべきか」

意見の異なる他者と粘り強く交渉し、対話を通じて合意を形成する力をつける

《研究内容》

- ・ 模擬国連の要素を取り入れた独自教材の交渉ゲーム“核軍縮”を実施。グループで国家代表として交渉に臨む
- ・ 対立する要求をもった各国と対話し、全員が合意可能な条約案を作成
- ・ 日本史、世界史、政経の知識と連動し、核軍縮をめぐる国際情勢を理解
- ・ 交渉ゲームの経験を踏まえ、NPT再検討会議においてどのような合意が必要か、「理想」と「現実」に触れつつ小論文を作成
- ・ 小論文は、国語、英語と連携。英語では英文のサマリーを作成
- ・ 広島市立大学教授が優秀論文を審査、講評を行う

【テーマ】 英語による平和学・核軍縮の研究

大学レベルの核軍縮研究授業を英語で実施し、高度な英語力、思考力、表現力を持ったリーダーを育成

《研究内容》

- ・ 広島市立大学準教授(アメリカ人)が、英語で核兵器開発史、核軍拡、核軍縮をめぐる国際政治について講義
- ・ 中学3年3学期に希望者を募集、20数名を選抜
- ・ 授業は全て英語、生徒との質疑応答、生徒間の意見交換、レポートも英語で実施
- ・ 生徒は授業以外にも放課後リーダー育成活動に参加。日本語・英語によるディベート、プレゼン、模擬国連、グループエンカウンター授業でジェネリックスキルを開発。

【研修】 山梨学院大学iCLA研修、ハワイ研修

予想を超える生徒の成長



**課題研究が、教室の中・意識の中だけで完結していない
行動・実践となって現れている！**

指標	指定前	1年目	2年目	目標
将来留学したり仕事で国際的に活躍したいと思う生徒の割合(%)	30	55.5	61.1	80
以前よりも国際問題に興味をもつようになった生徒の割合(%)	-	76	80.8	-
将来何らかの形で、グローバル社会で平和に貢献するリーダーになりたいと思うようになった(%)	-	46.0	52.1	-
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数(人)	30	71	99	90
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数(人)	70	440	525	400
公的機関から表彰、公益性の高い国内外の大会の入賞者数(人)	5	10	11	20
グローバルな社会またはビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数(人)	5	482	703	500

**もっと英語力をつけたい！という気持ちの高まりが、
何よりも重要！！**

指標	指定前	1年目	2年目	目標
卒業時CEFR B1～B2レベルの生徒の割合(%)	32	54.3	60	85
TOEFL iBT対策授業 受講者の平均(点) ※高1～3全体の平均	42	62.5	49.7	85
※高2～3＝継続受講者の平均(点)	-	-	70.5	
以前より英語力を高めたいと思うようになった 生徒全体(%)	-	80.2	84.4	
以前より英語力を高めたいと思うようになった 海外研修に参加した生徒抜粋(%)	-	100	100	

【Q-Uとは】

- ・ 早稲田大、河村茂雄研究室が開発した心理調査
- ・ 個々の生徒、学級集団の現状をアセスメント
- ・ 本校は年2回実施

Q.クラスの中で存在感があると思う(5と4の合計 中学)

Q.クラスやクラブでリーダーシップをとる(5と4の合計 高校)

1(低)～5(高)で回答

	1回目	2回目	全国
中1	56.7	48.3	中学 平均 35.5
中2	33.0	34.2	
中3	20.2	25.6	
高1	23.3	26.9	高校 平均 15.2
高2	27.8	30.7	
高3	27.8	27.7	

生徒が主体的・協働的に活動し深い学びを起こすためには、生徒同士の「対話的な関わり」が不可欠。その基盤が、自分への自信(自己肯定感・被承認感情)。その上で、価値観の異なる他者を尊重し、共に最善解を見出そうというALが可能になる。

Q.勉強やクラブで周りから認められている(5と4の合計)

	1回目	2回目	全国
中1	74.6	74.9	中学 平均 48.8
中2	52.9	58.7	
中3	46.1	52.1	
高1	49.8	55.1	高校 平均 27.5
高2	50.0	57.7	
高3	51.5	49.6	



第2部

～「外」の改革について～

課題研究授業での日常的な連携 + 研修の事前・事後学習での連携

大学	連携内容
広島市立大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選抜課題研究授業 Global Issuesに講師を派遣 ・ 各学年の課題研究教材、及びその成果に助言
首都大学東京	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高2 課題研究に関連しヒロシマアーカイブを共同で作成 ・ デジタルマッピング技術を学ぶ研修を実施
関西学院大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国研修の事前、事後学習を行う研修実施
長崎大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ C I F の事前学習を行う研修実施
山梨学院大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ Global Issues選択生に、英語での課題研究合宿を実施
広島女学院大学 昭和女子大学 新潟国際情報大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ カンボジア研修の事前学習、出前授業を実施 ・ カンボジア研修の事後学習、合同研究発表会で助言
モントレイ国際大学院	<ul style="list-style-type: none"> ・ C I F の共催(2015年度)

広島学習への協力⇔リーダー研修等

高校名	連携内容
Punahou School (Hawaii, USA)	<ul style="list-style-type: none">▪ Hiroshima Peace Scholarship研修協力▪ Global Issues受講生のハワイ研修受け入れ
Kilvingon Grammar School (Melbourne, Australia)	<ul style="list-style-type: none">▪ Japan Tripでのホームステイ受け入れ（隔年）▪ 本校中3生の生活体験学習受け入れ（毎年）
International School of Myanmar	<ul style="list-style-type: none">▪ お互いに・学校訪問、ホームステイ受け入れ、 学校・文化体験
渋谷教育学園渋谷	<ul style="list-style-type: none">▪ 広島研修で来校、ディスカッション▪ 東京研修で訪問、ディスカッション
沖縄尚学高校	<ul style="list-style-type: none">▪ Peace Forumや署名活動に参加▪ 沖縄修学旅行で学校訪問、意見交換会
活水高校	<ul style="list-style-type: none">▪ とともにCIFに参加、意見交換会▪ CIF事前研修で長崎訪問、交流会
不定期	多数

【新規開拓】

- 厚かましく、しかし誠実に
- give & takeになるように
- 根回しと学校全体でのシェア

【連携を進めるうえでの問題点】

- 研修費用
- リピーター引率
- 生徒の奪い合い
- 他の学校行事との兼ね合い

グループディスカッション② (20分間)

①大学、高校との連携を進めるにあたり

- ・ 連携先の見つけ方
- ・ 連携を進めるうえで困っていること
- ・ どうやって解決を試みているか

②海外研修を企画するにあたり

- ・ 困っていること（費用、引率、業者、etc）
- ・ 解決の知恵を出し合いましょう



シェア（各グループ1.5分）



第2部 資料編 (31~44)

【関連】 高1 課題研究

【参加】 高1 10名選抜(引率2名)

【事前学習】

- ・ 11～3月毎週1回グループリサーチを実施。文化・歴史、学校生活、原爆被害、教育、平和構築の5つのグループに分かれプレゼン作成(日英両)言語
- ・ 昭和女子大、新潟国際情報大のカンボジア研究者による出張授業
- ・ カンボジア観光省担当者より現地情報をヒアリング

【行程】

- ・ 6日間(3月)：キリングフィールド、山本日本語センター、ササースダム高校、ゴミ山、ヒロシマハウスなど
- ・ 原爆、内戦を伝え合い、記憶の継承と平和構築について意見交換

【事後学習】

- ・ 校内で在校生に報告した他、SGH研究発表会でもプレゼン
- ・ カンボジア研修を実施している他のSGH・SGHAとともにカンボジア合同研究発表会を開催、異なる視点から経験したカンボジアを互いに報告し合い、立体的・多角的に課題研究を深める。UNHCR、新潟国際大、昭和女子大の専門家より講義と助言

【関連】 中2、高1 課題研究

【参加】 中2 5名選抜、高1 10名選抜(引率2名)

【事前学習】

- ・ 歴史、教育など5つのグループでプレゼン、意見交換会の準備
- ・ 他のSGH校とともに関西学院大で留学経験のある大学生と研修

【行程】

- ・ 4日間(3月 一部生徒ホームステイ)： 建国大学/附属高校、延世大学、ソウルフィールドワーク、戦争記念館
- ・ 高校での授業参加、原爆をどう考えているかアンケート調査、日韓関係の現状と課題や互いの平和観について議論

【事後学習】

- ・ 校内で在校生に報告した他、SGH研究発表会でもプレゼン
- ・ 駐広島韓国総領事、山口大の研究者を招いて研修を報告、助言と評価をいただいた
- ・ 関西学院大を訪れ、韓国人留学生や韓国人研究者に研修を報告、意見交換会を実施

【関連】高1 課題研究

【参加】中3 4名選抜、高1 6名選抜(引率2名)

【事前学習】

- ・ 自然、歴史、文化、社会、政治経済のグループでリサーチし、プレゼン。現地校でヒロシマを発信するプレゼン作成
- ・ 校内に呼びかけ、現地小学校への支援物資を収集

【行程】

- ・ 5日間(1月)：ヤンゴン市内のInternational Schoolと小学校、農村地帯の小学校、JICAミャンマー事務所、職業訓練校
- ・ ヒロシマについてプレゼン、日麴関係をはじめ国際関係について意見交換(英語)
- ・ 途上国の格差など社会状況を直接経験、これからの協力の課題と意義について考察

【事後学習】

- ・ レポートを作成、校内で在校生に報告した他、SGH研究発表会でもプレゼン

【参加】 中3 22名選抜(引率1名)

【事前学習】

- ・ 2～7月、被爆の実相、佐々木禎子、本校と広島の被害、広島の復興、東日本大震災の5つのグループでリサーチ、プレゼン準備(英語)

【行程】

- ・ 17日間(7～8月生徒は全員ホームステイ)：Kilvington Grammar School、モナッシュ大学
- ・ 現地高校の授業に参加、8月6日のPeace Dayでプレゼン
- ・ AUSの名門大学を見学、大学生と交流(海外進学への意識づけ)

【事後学習】

- ・ 校内で在校生に報告した他、文化祭でポスターセッション

【参加】 中3・高1 10名選抜(引率1名)

【事前学習】

- ・ 「ヒロシマ」「平和」「広島女学院」について、英語によるプレゼン準備
- ・ 現地大学で行われる授業の基礎知識、英語表現を確認

【行程】

- ・ 13日間(3～4月)：マウントユニオン大学(オハイオ州)で、平和学、社会学など15クラスの授業に臨む
- ・ 同大学や地元高校などでプレゼン
- ・ フードバンクなど現地のボランティア活動に参加

【事後学習】

- ・ 校内で在校生に報告した他、文化祭でポスターセッション

【関連】 選抜授業Global Issues(G I)選択生徒

【参加】 高2 G I 選抜生徒 29名(引率2名)

【事前学習】

- ・ アメリカの原爆観、戦争観を『War without Mercy』を読み解きながら考察、議論
- ・ 英語による日本史通史『The History of Japan』を読み解きながら、日米開戦から敗戦に至る経緯、ハワイ真珠湾がどのような場所かを学習

【行程】

- ・ パールハーバー（ボランティア活動含む）
- ・ 日系アメリカ人の歴史を学ぶ
- ・ プナホウスクール、イオラニススクールでの交流
- ・ 広島女学院 同窓会ハワイ支部との交流

【事後学習】

- ・ 報告会実施（3回）、リサーチペーパーに取り組む

【Peace Forumとは】

広島原爆記念日前後に実施している本校独自の学習フォーラム。
ハワイ、沖縄などから多くの生徒が参加

【参加】本校40～50名、SGH校など7校50～70名(海外約10名)

【事前学習】※トピックは毎年変えている

- ・ 2015 「核兵器を廃絶すべきか」についてのディベート
- ・ 2016 「NPTはどうあるべきか」リサーチ、ディスカッション

【行程】

- ・ 2日間(8月6日前後)：被爆したOGによる証言、アメリカで核軍縮教育をすすめるNGOによるアクティビティ、ハワイのプナホウ高校生徒によるプレゼン、「核兵器を廃絶すべきか」を議題としたディベート(日本語・英語)とディスカッション

【事後学習】

- ・ 研修をエッセイにまとめ、校内で報告
- ・ 参加校では核兵器廃絶のための署名集めを実施

【CIFとは】

Critical Issues Forum；モントレイ国際大学院(加州)が、日米露の学生を集めて核軍縮をテーマにプレゼン、意見交換する高校生向け核軍縮フォーラム

【参加】高1・2 75名(プレゼン担当者を5名選抜)

【事前学習】

- ・すべて英語で行われた。モントレイ国際大学院から、「核軍縮に対する人道的アプローチ」について事前学習課題が出された。
- ・取り組むに当たり、広島市立大や長崎大の研究者による国際情勢と核軍縮についてレクチャーに臨んだ。

【行程】

- ・3日間；広島国際会議場でパネルディスカッション
- ・日米露より14校が本校に集まり、各校が議題に対して具体的な提案を行うプレゼンを実施し、意見交換

【事後学習】

- ・研修成果についてエッセイ作成

【碑めぐりとは】

- ・ 平和記念公園周辺の原爆関連碑などを案内する活動（1982年～）
- ・ 修学旅行などで広島を訪れる他県の高校生、海外からの研修者を対象に実施。合計531名に平和公園を案内。
- ・ 案内役を務める生徒は、全て生徒の立候補。延べ236名参加。
- ・ 内容やコース設定は生徒が主体的に作成。

【核兵器廃絶書名活動とは】

- ・ 被爆証言を聞いた生徒たちが、「自分たちにできることは何か」と議論して始まった、主体的活動。生徒組織「署名実行委員会」が活動を取りまとめている
- ・ 広島市長の協力を得て、年間15回程度広島市内で街頭署名を実施。生徒延べ651名が参加
- ・ 現在9年目、広島市も加盟し国連に登録されているNGO「平和首長会議」と協力し、署名を国連本部に送っている
- ・ SGH、SGHAをはじめ、署名協力校は全国に多数
- ・ 委員会の生徒は、被爆証言の聞き取り保存活動も行う

【関連】高2 課題研究、核兵器廃絶署名活動

【参加】高1・2 10名(引率1名)

【事前学習】

- ・署名実行委員会生徒が、被爆者の証言を収録
- ・アプリ「ヒロシマ・アーカイブ」を使った平和公園案内
- ・高2 課題研究(沖縄)において、「オキナワ・アーカイブ」を活用

【行程】

- ・2日間(11月)：首都大・渡邊英徳研究室
- ・デジタルアーカイブ作成の技術を実習、活用方法を大学院生と討議。アーカイブを使った平和学習を提案

【ヒロシマ・アーカイブとは】

- ・デジタル地球儀上に被爆時の写真や証言動画をマッピングしたアプリ。首都大渡邊英徳教授と本校生徒が作成
- ・活用した感想を書き込み、意見交換することもできる

http://hiroshima.mapping.jp/index_jp.html

【関連】 C I F

【参加】 高1～2 10名(引率2名)

【事前学習】

- ・ プレゼン作成、長崎市内フィールドワーク行動計画立案

【行程】

- ・ 2日間：長崎大学RECNA、長崎活水高校、長崎市内平和関連施設
- ・ 長崎大学RECNA(核兵器廃絶研究センター)の研究者より、最新の研究動向等について学ぶ
- ・ C I F本番でのプレゼンについて、助言を得る
- ・ C I Fに参加する長崎活水高校の生徒と意見交換

【事後学習】

- ・ 学びの成果をC I Fプレゼンに活かす

【関連】高2 課題研究

【参加】高2 10名(引率2名)

【事前学習】

- ・ 訪問先の選定、現地での行動計画を生徒が主体的に決定
- ・ 沖繩尚学高校の生徒と議論する内容を確認

【行程】

- ・ 3日間：辺野古、旧海軍司令部壕、那覇基地、普天間基地、沖繩尚学高校
- ・ 沖繩尚学高校にて、秋の研修旅行での議論を深めるために何が必要か話し合う
- ・ 辺野古、那覇、普天間で、基地問題をどう考えているか街頭インタビューを実施。賛否両論に触れた。

【事後学習】

- ・ 研修成果を高2全体に報告。研修旅行時には沖繩尚学高校とのプレゼン、ディスカッションでリーダーシップ発揮

【関連】韓国研修

※関西学院大研修は、韓国研修の出発前と帰国後にそれぞれ実施。
出発前研修を事前学習、帰国後の研修を事後学習としている。

【参加】韓国研修参加生徒

【事前学習(出発前研修 2月)】

- ・前年度の韓国研修の振り返りをもとに、今年度どのような活動を実施するか考察。
- ・関西学院大で留学や国連で活躍している大学生をメンターとして、「グローバルリーダーに必要な資質」などを学び合う
- ・他のSGH校4校と合同で実施

【事後学習(帰国後研修 7月)】

- ・韓国研修の成果を、関西学院大に留学中の韓国人留学生、韓国出身の研究者に報告
- ・今後の日韓関係についてプレゼン、意見交換を実施

【関連】 選抜授業 Global Issues(G I)

【参加】 G I 選択生30名(引率2名)

【事前学習】

- ・ 山梨学院大国際教養学部(iCLA)の教授陣より、英語の事前学習課題が出される。かなり重厚な英文だが、生徒が協力し合って読解
- ・ 研修で行われる交渉ゲームでの役割にそって、事前に英文の資料を読み込む

【行程】

- ・ 3日間：iCLAの学生寮を使って合宿。留学生との交流会も。
- ・ 社会学、政治学、文学、物理学の視点から核兵器について講義(外国人教授による英語授業)
- ・ 各国、国際機関の代表となって核軍縮に関する交渉ゲーム(英語)

【事後学習】

- ・ 研修成果をエッセイにまとめ、校内で報告